

弱溶剤2液 自動車やオートバイの部分補修に!!

# ウレタン

## スプレー

強靱な  
塗膜

紫外線・  
酸性雨に  
強い

美しい  
光沢



●写真はイメージです。

### ノンフロ

#### 用途

電気器具、機械器具、  
自転車、オートバイ、  
自動車などの鉄製品  
(非鉄金属、メッキ面  
には直接塗装不可)、  
プラスチック(硬質塩  
ビ、FRP、ABS)

#### 無鉛塗料

標準塗り面積  
(2回塗り)

0.6~1.0㎡

乾燥時間

夏期/20~30分  
冬期/40~60分

300ml

内容量(約) 300ml

ガス抜きキャップ

どれは便利

硬化剤と混合後は容器内で固まりますので、硬化剤と混合後は15時間以内に使い切ってください。  
レバーを押して使用剤と混合する際は、必ず噴出口をウエスなどで被って下さい。

- 商品名 弱溶剤型?液ウレタンスプレー
- 成分 合成樹脂塗料
- 組成 合成樹脂(ウレタン)、顔料(クワリヤを除く)、有機溶剤
- 特長 ●弱溶剤を使用しており、下地、旧塗膜を落とすことが殆どないので、幅広い塗り替えが可能です。
- 反応硬化後の塗膜は強靱で、耐酸性、耐アルカリ性、耐油性、耐水性、耐溶剤性に優れています。
- 光沢、肉付性に優れた仕上がりが得られます。
- 使用後容器が1日以内に廃棄できるガス抜きキャップ付きです。

#### 使用方法

- 1 容器の中に入っている塗料が沈殿していることがありますので、使用前に上下に缶をよくかき混ぜてください。
- 2 噴出口のオス等を洗い、容器を垂直に持ち「パチ」と音がするまでレバー後部を強く押し下さい(レバーは長く押さないでください)塗料が容器外に噴出されますので、そのまま15秒程度放置して下さい。
- 3 缶を良く混ぜる。選択球の音がしてから30秒間容器を十分に振り動かして下さい。
- 4 立たないところで、塗る面を15~20cm離して試し吹きをし、スプレーを動かす速さ、下地への影響、色、密着性等を確認します。塗る面にスプレーします。塗りたくるところから始め、塗りやすい自立したところを塗りつくります。使用中も時々容器を振り動かして中身を混ぜます。一度に厚く塗らず、薄くまんべんなく塗って乾燥させます。10分程度乾燥させてから2回塗りを行います。塗り終わる期間をおいて使用するときは噴出口が固まらないうち容器を逆さにして2~3秒吹きをし、噴出口をよく拭いて下さい。

硬化剤を混合した塗料は容器の中で固まり使用できなくなりますので、15時間以内に使い切ってください。

#### 危険



- 引火性あり ●吸入すると有害 ●皮膚刺激 ●強い眼刺激
- 器物の薄さ ●低気圧めまいのおそれ ●水生生物に毒性

#### 取扱い

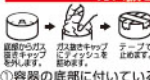
- 目に入った場合は、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、至急の清浄な場所まで安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。

第1石油類 120㎖/危険等級Ⅱ/火気厳禁  
合成樹脂エマルジョン塗料・クワリヤ合成樹脂クワリヤ塗料(U-O13)

フルール: プラスチック(PP) ボタン: プラスチック(PP)  
キャップ: プラスチック(PP) 容器: スチール  
ガス抜きキャップ: プラスチック(PP) カラープレート(PP) **日本製**

#### ガス抜きキャップの使い方

1. 必ず中身を洗い切ってから行って下さい。
2. 火気のない屋外で行って下さい。
3. 塗料が飛び散っても差し支えないところで行って下さい。
4. 容器が倒れないよう平らな場所で行って下さい。



①容器の底部に付いているガス抜きキャップを取り出し、ガス抜きキャップの内側にティッシュペーパーを5~6枚詰め、セロハンテープで浮かさないように止めます。

#### ガス抜きの方法

- ②キャップ側面のスリットにティッシュペーパーを差し込んで押し上げてキャップを外し、噴射キャップも外します。
- ③容器をたてた状態でスチールガス抜きキャップ底面の穴を合わせて押し込みます。ガス抜きキャップが固定されるとシューという音とともにガスと塗料が抜けます。2~3時間放置後、缶に油性ペンで「ガス抜き済」と書き、ガス抜きキャップと分別廃棄して下さい。

#### 取扱い上の注意

- ①表示の用途以外には使用しないで下さい。②乾燥が速いので、自動車等の塗装や広い面積の補修には適しません。
- ③食器など、食品に直接触れるものには塗らないで下さい。
- ④100℃以上になるところには使用しないで下さい。⑤5℃以下では硬化反応が大幅に遅れますので塗装しないで下さい。
- ⑥湿度が高い日に塗ると、ツヤが出なかったり、塗膜が白くもることがありますので、天気の良い湿度の低い日に塗って下さい。⑦取扱い中は必要に応じてマスクや手袋を着用して、できるだけ皮膚に触れないようにして下さい。
- ⑧有機溶剤が含まれているので、塗装中・乾燥中ともに換気をよくして下さい。⑨塗料がついても支障がない程度で作業して下さい。⑩塗料を吹きかけるときは、やむを得ずからならぬよう注意して下さい。⑪各色の色相は自動車のボディには対応しておりません。⑫必ず目立たない部分で試し塗りをして、色・噴射の状態・乾燥性・下地への影響・密着性等を確認してから塗って下さい。⑬コンパウンドで研磨する場合は3日以上乾燥させてから行って下さい。⑭塗膜が他の塗膜や樹脂等と接触すると、跡が残ったり色落ちすることがあります。⑮やむをえず中身の塗料を捨てるときは、火気のない屋外の風通しなどに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。⑯容器を捨てる際には、容器下部の表示に従って中のガスと塗料を十分に抜き、他のゴミとは別々に別立てして捨て下さい。⑰容器を捨てるまで中身が吹き出すことがありますので取扱いに注意して下さい。

#### 保管上の注意

- ①幼児の手の届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食、いたずらをしてしまうように注意して下さい。②中身が漏れたり破裂する危険がありますので、凍った場所などから守り下さい。③直射日光のあたるところ、自動車内・暖房器具の周辺など温度が高くなるところには置かないで下さい。

※用具の手入れ方法 30分以内にラッカーうすめ液で洗って下さい。

## 火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。

- ①炎や火気の近くで使用しないこと。
- ②火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
- ③高温にする破裂の危険があるため、直射日光の当たった所や火気等の近くなど温度が40度以上となる所に置かないこと。
- ④火の中に入れないこと。

必ず使い切って捨てること。  
高圧ガス: DME/LPG